

ブラインド・ガイドRUNサークル「あいりす」

見学・ボランティア、その他ご質問は、下記 ↓ の、担当:寺本まで!

(連絡先)ブラインド・ガイドRUNサークル「あいりす」 (担当:寺本)
携 帯:090-2839-7600 メール:

クラブの目標と主な活動予定について

【ブラインド・ガイドRUNサークル「あいりす」】について…

平成28年の9月、視覚障害ランナーの屋外練習や大会への参加をサポートしたいと、走ることが大好きな市民ランナーの仲間たちで立ち上げたサークルです。サークルの名称である「あいりす」の「あい」は、私の「I」、目の「eye」、愛情の「愛」、出会いの「会」です。

現在、ブラインドランナー(視覚障害者ランナー) 3名とガイドランナー(伴走者) 8名が、主に、金沢市営陸上競技場で、毎週月曜日(19時30分から21時まで)と日曜日(18時30分から20時まで)の練習をしており、一緒にマラソン大会等への参加を目指しています。

※冬期間は、金沢市総合体育館といしかわ総合スポーツセンターで練習しています。

【目 標】…ブラインドランナーとガイドランナーが伴走ロープで心をつなげて、一緒に楽しく走り続けることがサークルの目標です。まずは、下記の大会を目指しております。

2017/3/19(日) かなざわロードレース(10Kmの部)

2017/5/28(日) 第17階石川県障害者スポーツ大会

【ガイドランナーを知ろう!】

【伴走者。視覚障害のある選手をゴールまで誘導するランナー】

手をつないだり、100cm以内の紐を使って走路を指示したり、声をかけて誘導する。競技者の前方に出たり、選手を押ししたり、戦術に関するアドバイスをしてはいけない。また、ゴール時の写真判定の邪魔になっても反則となる。ガイドランナーの反則は選手の反則となり失格する。長距離を走る場合、途中でガイドランナーが代わることが認められている。2002年には日本陸上競技連盟の競技規則改正により「視覚障害者の伴走は助力にあたらぬ」とされ、一般のマラソン大会などに視覚障害者ともに出場する機会が増えた。

(藤田紀昭 日本福祉大学教授 / 2007年)

視覚障害を持つ選手の場合は、どこを走ったり飛んだりすれば安全なのかわからないため、競技を行う上で危険が付きまといまふ。そんな視覚に障害を持つ選手の「目」となり、サポートを行う役割を持つのが「ガイドランナー」と「コーラー」と呼ばれるパートナーです。

「ガイドランナー」は、伴走者とも呼ばれ、選手と紐を握り合い声をかけて、方向を伝えたり障害を避けるなど、選手を誘導する役割があります。tomoの知人で、このガイドランナーを務めたことがある人がいるのですが、その人曰く「選手をナビゲートするためには、一人で走るよりも高い技術力と体力が求められる」そうです。選手のペースを見ながら息を合わせることはもちろん、必要な情報を的確に伝えるなど、高い対応力と競技力が必要とされるのだそうです。

ゴールの際は、ガイドランナーが選手を引っ張ったり、フィニッシュラインを選手より先に切ってしまうと失格になってしまうので、必ず選手が先にゴールします。

ガイドランナーは、1選手につき2人まで登録が可能だそうですが、パラリンピックでは1名だけのガイドランナー登録で、選手と一緒に競技を行い3位以内に入った場合には、ガイドランナーにも選手と同じメダルが贈られるそうです☆

「あいりす」メンバー
練習風景と
大会(いわて大会)で
の様子

